

原稿用紙の使い方

原稿用紙は、字数の決められた文章を書く時に便利である。使い方に特定の基準はない。ここでは、一般的に用いられている書き方を示す。

1 題名

二行目の上から三、四字めから書き始める。副題をつける場合には、次の行に題名より下げて書く。副題にはダッシュ(―)をつけることよい。

2 氏名

題名の次の行か一行あけた行に書く。終わりを下から一、二字分あける。

3 書きだし

本文は、氏名の次の行か一行あけた行から書き始める。最初の一字分をあける。行を改めて新しい段落にする時も、最初の一字分をあける。

4 句読点・符号

句読点(。、)やかっこ(「」「』『』)(・)(～)(など)、疑問符(？)、感嘆符(！)などの符号類は、それぞれ一字分使う。疑問符、感嘆符のあとに文を続ける場合は、一字分あける。ダッシュ(―)や点線(…)は二字分使う。

5 数字・アルファベット

数字は、縦書きの場合、漢数字を用いるのが原則。横書きの場合は、算用数字を用いるのが原則。「一般的」「一つ」「二つ」のような場合は漢数字を用いる。

6 会話文

かぎカッコ(「」)で囲む。

7 引用文

一、二行程度の短いものは、かぎカッコ(「」)で囲む。長いものは改行して引用文全体を二字程度下げて書く。

わたしにとっての国際化

——自分の意見をもつということ
一年一組 松本 一郎

「国際化」とか「国際人」とかいうことは
を聞くと、思い出す話がある。

中学一年のホームルームの時間、文化祭の
出し物の決め方が安易に「多数決」というこ
とになりそうになったとき、オーストラリア

からの帰国生だけが「みんなでも」と話し合
うべきだ。」と反対した。

わたしは、そんなことは考えたこともなか
ったし、みんなの前で自分の考えをはっきり
と言えるその子がとてもステキに見えた。で
も、その子の日本語がちよっとおかしかった
から、みんなといっしょにわたしもゲラゲラ
笑ってしまった。けれども、その子はずっと
オーストラリアで暮らしていたわけだし、学
校ではいつも英語を話していたというから、

符号の使い方

・ なか点・なかぐろ

- ①名詞を並列する
- ②外来語の句切れ・日付などを示す

「」 かぎカッコ

- ①会話や引用を示す
- ②特定の言葉を強調する

『』 二重かぎ

- ①かぎカッコの中でかぎカッコを使う
- ②書名を示す

() カッコ

補足する内容などを加える

― ダッシュ

- ①言い換えを示す
- ②間を示す

… 点線

- ①省略を示す
- ②余韻を示す

〰 波形

- 時・場所などの「〇〇から△△まで」を示す